

「生見小学校の生見おた踊り伝承活動の取組」

1. 学校名	鹿児島市立生見小学校
2. 学年・人数	1年2名、3年3名、5年7名、6年1名 計13名
3. 日時・場所	(1) 練習の日時・場所 令和7年9～10月 5回 生見校区公民館、小学校体育館及び校庭 (2) 発表の日時・場所 令和7年10月26日(日) 小学校・校区合同運動会 校庭
4. 伝承・活用に取り組んでいる郷土芸能、伝統行事、伝統工芸品について	(1) 名称 生見おた踊り（ぬくみおたおどり） (2) 由来 薩摩藩主島津の殿様から出陣を命ぜられたとき、その門出に踊ったものといわれている。生見校区に伝わる「おた踊り」は、万延・文久のころに、久津輪三四郎氏が日置郡阿多村（現在の金峰町）から伝授されたものといわれている。一説には、もう帰らない覚悟で出陣した武士達が、戦いすんで戻ったとき、再び家族と会えた喜びを表した「逢うた踊り」であったともいわれている。 (3) 構成等 白鉢巻きにかすりの着物、紅白のたすき・前掛けをつけ、青手甲・黒脚半・白足袋・草履といういでたちで、右手に三又槍、左手に房の付いた飾り太刀をもって前後2列になって踊る。歌い手の歌に合わせて、右手の三又槍を軸に体をひねったり、飾り太刀を大きく振り回したりして優雅に踊るのが特徴である。その際、節目に昔ながらの言い回しをみんなで掛け声かけるのも一つの特徴である。
5. 文化財伝承・活用の取組において地域との連携や工夫した点等	長い間、婦人会や女性の間で伝承されてきたが、平成7年に保存会が結成され、毎年、生見小学校の児童が運動会で踊りを発表する際に、指導することで伝承活動を続けている。指導に当たっては、「個性あふれる学校づくり推進事業」を活用し、指導者の負担軽減を図っている。 また、小学校児童への伝承活動に留まらず、卒業生にも伝承活動を継続してほしいという願いもあり、運動会では中学生も一緒に踊りを披露した。また、令和5年度までは3年生以上だったが、児童数が減少の中でも、少しずつ継続していくために、全校児童で取り組むことにした。当日は児童、中学生と一緒に披露し、一体感が生まれた。
6. 取組の様子（練習状況、発表の場等）	  <p style="text-align: center;">○児童の練習の様子</p> <p style="text-align: center;">○運動会での発表</p>
7. 感想・意見（参加児童）	【6年生児童の感想】 保存会の方々には4年間しっかり指導していただいたおかげで、毎年少しずつ覚えていき、今年は下級生に教えることもできました。本番でもしっかり踊ることができました。中学生になってもまた踊りたいです。